

### 家庭血圧に基づく高血圧診療と家庭血圧コントロール：大迫研究

佐藤 倫広

東北医科薬科大学医学部 衛生学・公衆衛生学教室

**【目的】** 本研究は、一般外来を受診中の高血圧患者と高血圧専門外来を受診中の患者を対象に血圧コントロールの要因を探索した。

**【方法】** 対象者は、2016-2019年の大迫研究に参加した岩手県花巻市大迫町在住の高血圧治療中患者375名である。高血圧専門外来患者は、家庭血圧に基づき診療を行う大迫地域診療センターの高血圧外来受診中の者である。その他の一般外来における家庭血圧測定と診療への活用状況は不明である。大迫研究で収集した4週間の早朝家庭血圧が135/85 mmHg未満のとき家庭血圧コントロール良好と定義し、その要因をポアソン回帰分析で分析した。

**【結果】** 全対象患者375名(平均72歳/男性43%)において、性、年齢、body mass index (BMI)、喫煙者、飲酒者、糖尿病、脂質異常症、脳心血管疾患の既往歴、および3剤以上の降圧薬のうち、若年、BMI低値、および降圧薬3剤以上が家庭血圧コントロール良好と有意に関連した。この解析に“高血圧専門外来受診中”を追加投入したところ、若年、BMI低値、および高血圧専門外来受診中のみが有意な家庭血圧コントロール良好の要因であった。家庭血圧コントロール良好の割合は、高血圧専門外来患者173名では93.6%であった一方、一般外来患者202名では44.1%であった。

**【考察】** 家庭血圧測定を適切に指導し診療に活用することが、血圧測定による健康意識向上や適切な降圧薬の選択を介して、家庭血圧コントロール良好に寄与する可能性がある。